

令和5年4月17日

保護者様

愛媛大学教育学部附属小学校
校長 田中 雅人

教育活動についてのお知らせ

—令和4年度学校評価の結果を踏まえて—

陽春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、愛媛大学は、大学憲章で「自ら学び、考え、実践する能力と次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に輩出することを最大の使命とする」と謳っています。これは、愛媛大学附属学校園においても、貫かれる理念です。

本校では、この理念の下、子ども一人一人を「知」「徳」「体」の調和がとれた人間に育てるために、全人的な教育を行っています。また、毎年、様々な評価活動を行いながら、その改善を図っています。昨年度も、『学校評価ガイドライン』（文部科学省）に沿って、皆様にご協力いただいたアンケートをはじめ、子どもたちの学習や生活についての意識調査、生活実態調査、学力検査などを基に、【自己評価】を行いました。また、学校関係者や教育の専門家の立場からご指導をしていただく【学校関係者評価】や【第三者評価】を行いました。それらの結果の概要をお知らせいたします。これまでいただいた評価を生かしながら、子どもたちのよりよい成長を目指して取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

1 学校の教育目標

学校の教育目標を、「自己を拓き、ともに生きる児童の育成」とします。この教育目標は愛媛大学附属学校園の教育理念を基に、附属学校園間で検討を行い、幼稚園、中学校、高等学校や特別支援学校の連携を踏まえたものになっています。5校園共通の教育理念「未来を拓く人材の育成」の下、大学などとの連携を強化して、その実現に向けた教育を、発達に応じて行います。

本校では、学校の教育目標の実現に向けて、昨年までの教育活動を踏まえ「確かな学力（知）・豊かな心（徳）・健やかな体（体）の調和がとれた人間を育てること」「自律しつつ自分のよさを伸ばしていくとともに、自分を取り巻くもの・こと、ひとと共に生きていくことができる人間を育てること」を大切に考え、教育活動を行っています。

こうした本校の考え方に対し、昨年度、全校で99%の保護者の方から「よい」の回答をいただきました。こうした評価は、毎年、入学説明会でお伝えしている本校の教育方針にご賛同いただいた上で子どもを通わせていらっしゃるからだと考えます。また、学級PTAなどで説明している学校の教育目標の実現に向けた様々な教育活動について、ご理解をいただいているからだとも考えます。

そこで、本年度もこの目標の下で、「探究心をもって、自然や社会、文化などがかかわり合い、学びを楽しむ子ども」「目標の実現に向けて、自省しながら学び続けようとする子ども」「集団の一員としての自覚をもち、他者と理解し合って生きようとする子ども」を育てていくことを目指し、大学、附属学校園が連携して、教育活動を構想し、実践していきます。

2 学習指導

大学などと連携して研究や研修を深め、子どもが多様な経験やかかわりを通して学びを深められるよう、努力をしていきます。

本校の学習指導に対し、昨年度、全校で99%の保護者の方から「よい」という回答をいただきました。特に、高学年での教科担任制、専科制、体験を重視した学習への支持が多くありました。「今のような主体的な学習に力をいれていただきたい」「子どもたちが、楽しいと思え、かつ悩んだり揉めたり認め合ったり、たくさんのチャンスを作り出している」などの声も多くいただきました。

子どもの意識調査でも、授業を「楽しい」と感じている子、授業で「わかる・できる」ようになっていて感じている子、友達と一緒に学ぶよさを感じている子は、いずれも全校で95%を超えています。また、第6学年で行った全国学力・学習状況調査や、全学年で行った学力検査（CRT）の結果も、全国平均を大きく上回っていました。

学校関係者評価委員や第三者評価委員の方からも、本校の授業の質の高さ、授業研究の充実ぶり、その成果としての子どもの育ちについて、十分な評価をいただきました。今後も、更なる向上を目指してまいります。

この他、保護者の方からは、「キャリア教育の充実」「地域とのかかわりあいや外国人との交流などの中で、コミュニケーション能力を身に付けさせたい」などのお声もいただいています。これらのご意見も大切にしながら、更に授業内容の充実を図っていきたいと考えています。

3 生活指導

自他や生命を尊重する心を育てるとともに、基本的な生活習慣や社会性、規範意識を身に付けさせる指導を、家庭や地域と連携して更に徹底していきます。

本校の生活指導の有り様に対して、昨年度、全校で98%の保護者の方から「よい」の回答をいただきました。その具体的な理由として、異学年交流を通しての社会性の涵養、スクールカウンセラーによる相談体制などが挙げられています。

学校関係者評価委員や第三者評価委員の方からも、実際に本校の子どもたちの学校生活の様子をご覧になった上で、本校の生活指導への取組に対して十分な評価をいただきました。

しかし、公共の乗り物を利用する際のルールやマナーが守られていないことや保護者による学校近辺までの自家用車での送迎など、改善すべき点があり、地域の方からご指摘を受けることがあります。

子どもの意識調査では、学年が上がるに連れ「自信」や「積極性」への自己評価が低下する傾向にあるのが気になるところです。一方、「共感・安心」「他者への信頼感」という項目については、経年比較で徐々に高い傾向になっています。環境の中で自分の力を発揮し、認められ、次に挑戦するというサイクルが生まれるよう、学校行事や各学級の取組に工夫を持たせていきます。

生活指導については、学校での指導はもちろんですが、家庭や地域の協力が必要です。これまで以上に連絡を取り合いながら、子どもの心身をより望ましい方向へと導いていくために、学校と家庭が軌を一にして取り組んでいきたいと思っております。ご協力をお願いします。

4 安全管理・指導

環境整備や危機管理体制を充実し、子どもとともに、安全・安心な学校づくりを更に進めるとともに、危険予測・判断・回避能力を高める指導を進めます。

昨年度、全校で98%の保護者の方から「よい」の回答をいただきました。近年進めてきた、4校園合同の避難訓練の実施、PTA社会教育部の方々による献身的な登下校の見守り活動、不審者対応など、本校の安全に関する取組を評価していただいているものと思われます。

学校関係者評価委員や第三者評価委員の方からも、近年の校内環境の改善の様子や4校園による避難訓練などの実践的な取組を評価していただいております。一方、「施設の安全性について子どもの目線で考えられるよう、子どもとともに行う安全点検が必要だ」との声もいただきました。子どもの安全のためには、これで完璧ということはありません。今後も、安全・安心な学校づくりに努めてまいります。更に、子ども自身の危険予測・判断・回避能力を高める指導を重ねてまいります。

5 連携

情報発信・受信のシステムを整備するとともに、子どもの健全な成長を願って、保護者はもちろん、附属学校園や大学、関係諸機関との連携を更に密にしていきます。また、PTA活動の見直しと活性化を図っていきます。

学校と保護者との連携については、昨年度、全校で98%の保護者の方から、「よい」の回答をいただきました。具体的には、「子どもの様子が分かってうれしい」「授業の様子や方針をお知らせくださり感謝しかない」などと、TEAMSを利用した情報発信に評価の声をいただいています。

子どもを健やかに育てたいという願いは、保護者の方々も教師も同じです。気になることがあれば、まずは学級担任や学年主任などに、気軽に声を掛けていただければと思います。情報交換を密にしながら、共に力を合わせて、より望ましい指導を目指したいと思います。そのために、これまで以上に相談しやすい体制づくりに努め、信頼される学校となるようにしたいと考えています。

PTA活動については、活動内容等をシンプルに見直し、改善したことについて評価する声をいただきました。また、「役員以外でも協力できる機会が多くあれば、参画したい」など、75%の方にご支持をいただいております。昨年度は、「PTA意見箱」を校内に設置し、様々な声を吸い上げられるよう工夫しました。更に改善を図りながら子どもの健全育成のために気軽につながり、子育てにプラスになるPTA活動にしていきたいと考えています。これまで以上に、互いに助け合い、支え合うことのできる附属小学校PTAとなるよう、どうぞ、ご協力をお願いします。